

88 明治11年1月20日 菊池長閑宛

第二号明治十一年一月廿日 (長閑注記)

第十号達す外国遊覽被成度との事實に届ものなら為見上け度ものなり私共ハ渡海前少々洋学もし居先生等より聞知たる事ありしなれ共儘眼を驚すものある故西洋の事に不案内の人々か外国に遊たらは私共よりハ却て楽の多きものならん当国より欧羅巴に渡るにハ大西洋を横切らねは成す此海ハ大平海(マヤ)と較れハ余程荒き海にて大概日数十日□□て英国又ハ仏国に着なり欧羅巴渡船会社の数甚々多く英国に行会社計の数も当府近辺に六ツ七ツあり仏国に渡る会社あり独乙国ドイツに往ものあり各一週間に一返ハ出船するなり船賃ハ食料共に上等にて凡ソ八九十弗下等ハ三十弗前後なり斯直の安きも旅客の多のと会社の数あるとに依なり

日本より米国に渡る渡海船会社ハ只二ツあるのミにて互に競合客を己の船に引んとの励みなく自由に高直を吹て居なり当国の人ハ少し余計の貯金あれハ自國を遊覽するよりハ先歐羅巴に出掛其名所古跡を探り遠くハ「トルコ」「ロシア」辺迄遊覽するハ平生の事なり歐羅巴を見たる人ハ東京より帰た人か日本より外國に洋行したる人の如く歐羅巴話をし人にも能取持たれ自分にも少し様子振なり又欧州の學術の開たる事遙に米国に勝る故音楽^{ジユツ}醫術を始諸學諸芸を修業の為渡海する人夥し女連^{母と娘姉妹}又ハ朋友同士の旅人杯ハ常にある事にて更に怪む者なし日本とハ大違ひ旅連多人數あれハ樂みも多く旅費も減する故四人より以上思ひ／＼に組を作て遊覽するなり此ハ誠に宜趣向と覺ゆ英國を除くの外ハ仏朗^{アラシム}西語ハ能通する故前以て仏語を稽古して渡るもの多し英と米とハ同じ國語故英國に渡にハ用意入れ総て欧州に渡る者ハ四國九州又ハ箱館辺の者の東京大坂に渡る位の心持にて往なり運送の便利か開るに随ひ世界か段々狭くなり今に日本より米國江の渡海も右の如く成かも知れず

御父様

武夫

(長閑注記)

「三月十一日達し日數五十一日」